

切手の日誌

# Stamp Diary



---

2011年3月号

## 3月9日（日本1970）

---

先月末からバタバタし、気づいたら3月も三分の一が終わろうとしている。日本切手の整理も2000年代に突入し、ますますアニメ頼りや没個性の切手が増えてきたなあと、しみじみ思う。それでも、新しい切手を求める外国人コレクターがいるのは、もはや絵柄を楽しむということより、全部揃えるという動機に駆られているのだろう。

ということで、（私が勝手に定義した）自意識過剰な1980年代を紹介する前に、1970年代から何枚か紹介する。



1970年発行の「日本万国博（第1次）」の3枚シリーズからの1枚で、タイトルは「地球と桜花」とある。私が気になった理由は、この雰囲気や色使いは一昔前の振り袖に通じるものがあると思っているが、いかがだろう。現在は割と原色系が好まれる。薄いピンクを基調とした桜模様の振り袖に、帯や小物はゴールドとブルーで仕上げる。今では流行らない感じのイメージだ。

新しい動きがあった。なんと、カナダから「私と切手交換をしたい」という申し出を受けた。どうも昨年12月に申し込んだ切手交換サイトによく私の案内が掲載された模様。もちろん、断る理由はない。

## 3月10日（フランス）

---

フランスのジョゼから第3弾が到着していた。今度は（また）お手紙と一緒にギフトとして数枚余分についている。けて太っ腹な数枚ではない（小さい切手）が、その気持ちが嬉しい。

今月の表紙はジョゼからの一部で、50～60年代（多分）のフレンチのみ選んでみた。



一番右の蝶切手だけが頑張っている感じの封筒である。今回は私の希望を述べて、1960年代からセレクトしてもらった。フレンチ・コレクションが手厚くなってきたので、そろそろ整理して順次紹介してゆきたい。

## 3月12日（日本1970）

2011年3月11日という日は、1995年1月17日同様、今後の日本の歴史に深く刻み込まれる日になるに違いない。昨夜は地下鉄も止まり、防寒を兼ねて非常袋を背負い、この冬一番の大買い物であったイタリア製の冬ブーツでトコトコ3時間歩いて帰ってきた。履き慣らしたブーツのお陰で3時間寒さを感じることなく歩き耐えることができた。まあ、3時間で帰れたのだからラッキーなほうである。（途中、ラーメン食べた）

この週末は幸いにノープランなので、朝から興奮していた神経を休めるため、切手の整頓をする。ようやく日本の記念切手の整理が終わる。カナダから、新たに200枚交換という大口な申し出もあったので、これからバリバリ重複しているものを処分し、在庫…ではなくコレクションを回転させる。

先日に続いて紹介したい1970年代、次の一枚は同じく1970年発行の「日本万国博（第2次）」からで今度は「地球と万博会場」とある。



ベタ塗り調も嫌いではない。デザイン自体は少し幾何学的な造りですな。どれが太郎の塔、否、岡本太郎が作った太陽の塔はどれかな？

3月13日（日本1970）

東北の被害が刻々と明らかになり、その規模の大きさに驚く。しかも、ママの出身が宮城県東松島市なので、実は私にとっても全くの他人事ではない。祖父、伯父とこの数年で立て続けに亡くしたので、もはやママの姉や友人ばかりであるが、未だ連絡がつかない状態だ。テレビを見る限りでは、床下浸水程度で命に別状が出る地域ではないが… ママはソワソワ浮ついている。

マイコレクションから気になる1970年代をもう何枚か紹介する。



これは1970年発行の「電信創業100年」で「程が谷（安藤広重）」とあるが、浮世絵をモチーフに、今回の題材としてアレンジしたのだろうか？ ネットで調べる限り、このような浮世絵は見つからない。木々に電線が通っている。何か変！？

フランスから、新たに100枚交換の申し出も受けた。一気に在庫が処分される気配。また仕入れるか、否か？



## 3月14日（チェコスロバキア1978）

日頃、私はあまりテレビを見ない。なので、予備情報もなく駅に行ったら、間引き運行やら入場規制をしていて、駅から人が溢れ出していた。職場からは、臨機応変の任意出勤が許可されていたので、即座に勝手時差出勤に切り替えた。

そのため、朝から時間ができたので、またもや精神安定剤の切手整理をする。段々、コレクションらしくなってきた。

先月チェコのアーティスト Jiří Antonín Švengsbír (1921-1983) を紹介した。



この切手は恐らく死後に2004年に記念碑的な思いで発行されたようだが、手持ちのコレクションから、一見してこの人の作品と思われる切手を発見した。1978年発行の橋シリーズ6枚からの1枚である。



他の5枚も一見してこの人の作品とわかる作風である。よくよく調べると2004年に発行された切手の内側にある絵柄は、1970年発行の伝統建築 (old houses signs) シリーズ6枚の1枚であることがわかった。この人は、建築物をこんな風に描くことが得意のアーティストのようだ。東欧的幻想を感じる。こういう細密画は好き。

## 3月15日（ポーランド1957）

どことなく重い空気を感じながら仕事に向かっていたら、ドイツ人のヘッドが部長連中を自分の部屋に招集していた。間もなく、全員即帰宅で今後は会社から連絡があるまで自宅待機となる。福島原発の影響だろうか？

またも、いきなり時間ができてしまった。

職場の外人はみな日本脱出で頭が一杯のようだ。私の気分は（未体験であるが）戦時下の国民（安全な地域に疎開したい）心境になり、こんな1枚を選んでみた。



兵士を思わせる物騒な絵柄に捕まったが、調べているみると1957年発行の防火会議（fire congress）シリーズ3枚の1枚であった。

訳もなく旧共産圏の切手に関心が向かう。ポーランド切手の整理が終わったので、引き続き何枚か紹介したい。そもそもポーランドは大国（ドイツとロシア）に挟まれ、小国が故の知恵を蓄積している国だと私は思っている。1つは第二次世界大戦中のドイツの暗号（エニグマ）の解読で、あれにはポーランドの努力も貢献していたとどこかで読んだ。日頃できることから、大国への備えを疎かにしていない証拠であろう。

それに確率論を専門にしていた大学時代の先生が、ポーランドのことを「独特な研究をする国だ」とつぶやいた一言も妙に記憶に残っている。何がどんな風に独特なのか知りたい。またスタニスワフ・レムのような超越した作家が産出されるような不思議な土地でもあるようだし。

ポーランドと言えば、シヨパン・コンクールでそれにちなんで発行される切手は揃えてみたい。そのときそのときの雰囲気味わえるかな？

夕方、ようやくママの親族の安否が確認できた。家は浸水し無事だった従兄弟宅に身を寄せているとか。体育館よりましと親族20人近くがいるらしいが、ライフラインが未復旧のため、苦しい生活を強いられているとのこと。ああ、自分の境遇をありがたく思うと同時に改めて無力な自分を思う。

## 3月16日（ポーランド1964）

原発の経過が気になりつつ、精神集中の座禅のごとく整理を行う。無心にカタログと首っ引きで雑多に缶に入れてあった切手がアルバムに無事収まると少し嬉しくなる。部屋は片付いていないが、缶の中が片付いたから。



1964年発行「人民共和国20年記念」とでも訳すのでしょうか、wikipediaで調べると「ポーランド人民共和国（共産党時代）」は1945年5月8日から1989年9月7日とあるので、前年に発行された10枚からの1枚である。

絵柄意味は別として、60年代にしては色使いが洒落ていないかと思っている。他に同じようなデザインで別の色を基調にしたものが5枚あるが、全部揃うと何か重工業を讃えた普通の記念切手に見えてしまう。



## 3月17日（ポーランド1973）

朝から上司と電話で相談する。今日も私は自宅待機。おうちが好きなので構わないが、一見平和な東京で、一人こっそり平和の有り難みをシミジミと実感する。原発はいつ山場を超えられるのだろうか。



1973年発行「郵便番号導入記念」とでも訳しましょうか。○が付いている「01-029」がそれなのだろう。3つの→もそこを向いている。このイメージ、今度パワーポイントで資料を作るとき応用できるのではないか？最近資料のレイアウトがマンネリ気味なのでね。

## 3月18日（フランス）

---

フランスのイザベラからの切手が届く。ジョゼに続く、新しいパートナーになりそう。フランス切手が充実しそうだが、どうコレクションを形成しようか。



この右上にあるハート型は定期的に発行されるフレンチ・ブランドにちなんだもので、結構気になっている。これはGivenchy（ジバンシー）である。フランスらしいね。

## 3月19日（カナダ）

---

カナダのSFTからの切手が届く。名前を見る限りでは、中国かベトナムのアジア系移民ではないかと推測するが、筆跡から見るとおじちゃんかな。



オランダ、ドイツ、スイスの切手250枚を交換した。震災が重なりお見舞いメールを何度かやりとりして円満にトレードは終了。イザベラもジョゼもコジョルカもみんな心配してくれた。ありがたい。

連休明けより通常勤務に戻る。なんとスリランカから怪しい英語で50枚の交換申出を受けた。先日発送したので、来月はスリランカやドイツ、フランスも紹介してゆきたい。